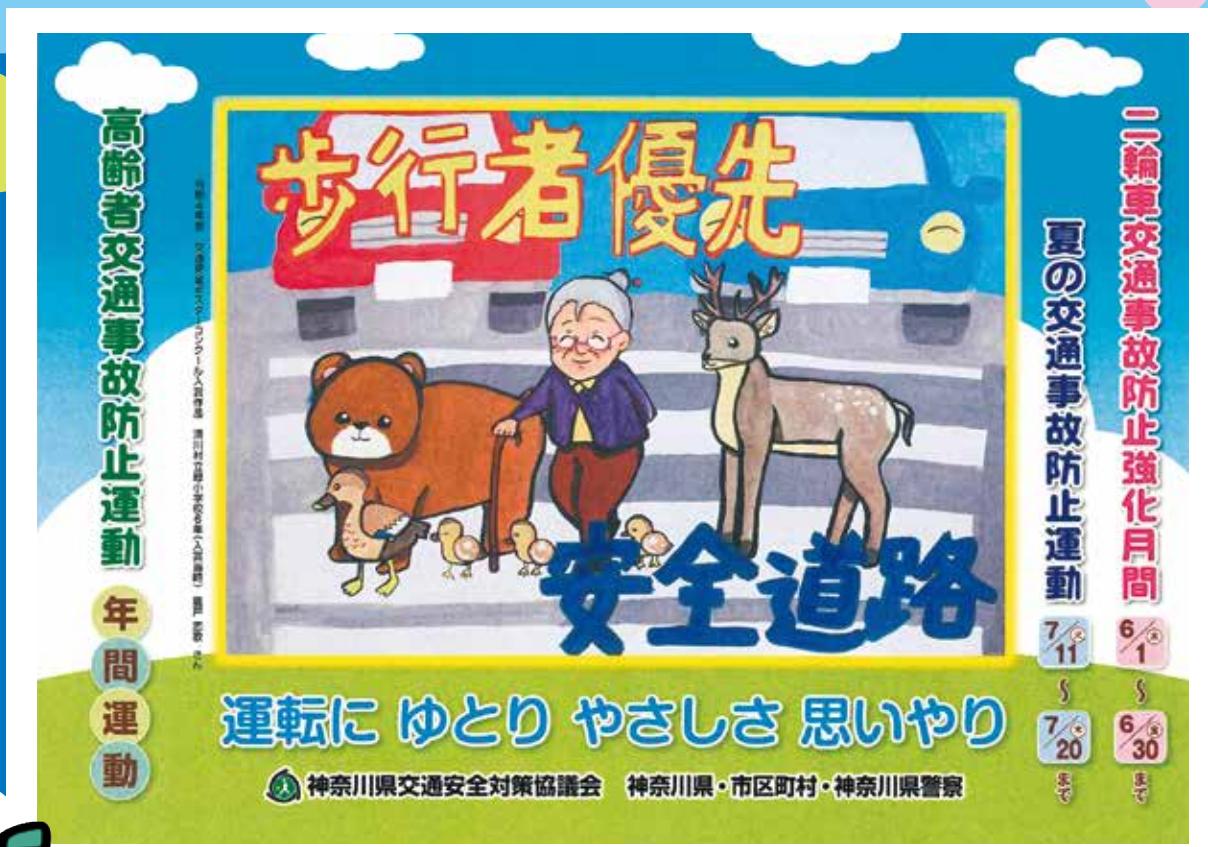


かながわの交通

2023
7月号

交通安全年間スローガン受賞作品（文部科学大臣賞）
～こども部門～ 子どもたちに交通安全を呼びかけるもの

あぶないよ いそぐきもちに しあわせ



二輪車交通事故防止強化月間・夏の交通事故防止運動ポスター

道路横断には気をつけて！

高齢歩行者の事故が増えています。

油断大敵！ 運転者も歩行者もルールを守って
交通事故防止に努めましょう！

歩行者
事故
多発！

◎県内の交通事故発生概況（令和5年6月末現在） ◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
令和5年		10,402	58	12,213
令和4年		10,157	58	11,677
増減数		+245	±0	+536
増減率		+2.4%	±0.0%	+4.6%

	総数	男	女
県人口	9,235,491	4,578,589	4,656,902
免許人口	5,666,335	3,211,317	2,455,018
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.8人に1人

(県人口は令和5年6月1日、免許人口は令和5年5月末現在)



ホームページ

夏の交通事故防止運動の実施について

- **期間** 令和5年7月11日(火)～7月20日(木)の10日間
- **目的** 夏のレジャーなどに起因する過労運転や、夏特有の解放感による無謀運転などにより交通事故が多発することが懸念されることから、県民一人ひとりが交通安全について考え、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組むことを通じて、交通事故防止の徹底を図ります。
- **スローガン** **交通ルールを守って 夏を楽しく安全に**
- **運動の重点**

1 過労運転・無謀運転の防止	2 高齢者と子どもの交通事故防止
3 自転車の交通事故防止	4 二輪車の交通事故防止

二輪車交通事故防止・暴走族追放強化月間の実施結果

6月中「運転に ゆとり やさしさ 思いやり」「暴走は しない させない ゆるさない！」をスローガンに、二輪車交通事故防止強化月間及び暴走族追放強化月間が行われました。



(津久井交通安全協会)

津久井交通安全協会では、梅雨前に二輪ライダーの集まる宮ヶ瀬ダム周辺において「プロテクターをつけるニヤー！」を合言葉に、各種プロテクターを装着する重要性を訴えた交通安全キャンペーンを実施しました。

○ 県内の二輪車交通事故発生状況（概数）

	6月中			6月末		
	発生件数	死者数	負傷者数	発生件数	死者数	負傷者数
令和5年	446	4	403	2,876	17	2,577
増減数	-54	+1	-41	+53	+2	+66
構成率	26.7%	28.6%	21.2%	27.7%	29.3%	21.1%

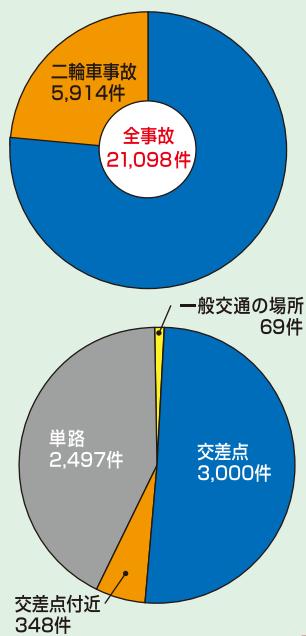
※ 構成率は全交通事故件数、全死者数、全負傷者数に占める二輪車事故の割合

☆ 県内の暴走族の実態（令和4年中）

暴走族		旧車會	
グループ数	18 グループ	グループ数	59 グループ
構成員（共同危険型）	425 人	構成員	564 人
構成員（違法競走型）	115 人		
合計	540 人		

☆ 地域における様々な取組を通じて暴走族追放の気運を高めましょう ☆

令和4年中の神奈川県内二輪車事故の特徴



◆ 全事故に占める二輪車事故の件数

○神奈川県は全事故件数に占める二輪車事故の件数、構成率が**28.0%**と高い！
(二輪車乗車中の全国構成率 16.7%)

◆ 道路形状等分類別衝突地点

○交差点における事故が全体の**50.7%**を占める！
☆**黄色信号**も停止位置をこえて進行してはいけません。
※停止位置に近接しているため、安全に停止できない場合は除く。
☆**単独事故**も多くなっています。
カーブの手前では必ず減速しましょう。

右折・直進車事故に注意！

☆ 二輪車は四輪車と見比べた場合、遠く、小さく見える傾向があります。
☆ 直進二輪車は、**交差点で、右折車両**がある場合、直ちに**制動措置**が取れるよう、**注意**して進行しましょう。

◆ 年齢層別負傷者数



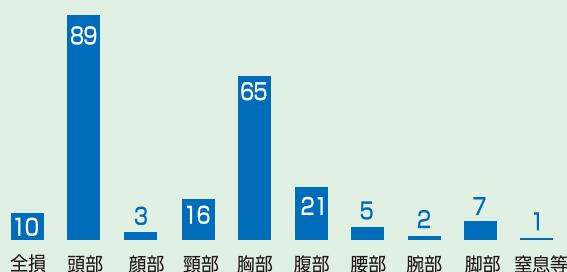
○二輪車乗車中の負傷者は20歳代より40歳代、50歳代が多い。

☆ベテランでも油断・過信は禁物です。

※ 年齢層別負傷者数については、対歩行者、自転車事故を含むため、二輪車事故件数 5,914 件とは、一致しません。

◆ 二輪車乗車中死者の主要損傷部位

過去5年 219人



◆ 二輪車乗車中負傷者の主要損傷部位

過去5年 28,553人



○二輪車乗車中の死者の主要損傷部位は**頭部・胸部**が多い。

☆ ヘルメットは自分にフィットした安全性の高い規格を選び、あごひもは確実に締めましょう。

○二輪車乗車中の**負傷者**の主要損傷部位は**脚部・腕部**が多い。

☆ 脚部・腕部保護はプロテクターを装着しましょう。

TSマーク貼付自転車安全整備制度推進優秀整備店の表彰（令和4年度中）

サイクルオリンピック
ダイワサイクル

川崎鹿島田店、鶴見中央店、綱島樽町店、平塚湘南シティ店
幸店、宮前店



点検整備に伴うTSマークの貼付推進を通じて、自転車の交通事故防止と被害者救済に貢献したTSマーク貼付推進優秀自転車安全整備店として、本県からは6店舗が選ばされました。

TSマークについては、これまでの赤色TSマークと青色TSマークに加え、付帯保険の保証内容を充実させた緑色TSマークの取扱も開始されています。

各店舗には県協会の青山事務局長が赴いて、（公財）日本交通管理技術協会からの感謝状と副賞を店長等に伝達しました。



平塚湘南シティ店に▶
における伝達式の様子



御 挨 捶

公益財団法人神奈川県交通安全協会 専務理事 小島伸治

公益財団法人神奈川県交通安全協会の専務理事に就任いたしました小島でございます。

神奈川県交通安全協会は、昭和23年3月に発足以来、民間における交通安全活動の中核的な推進団体として、県民の交通安全意識の向上と交通事故防止に寄与してきた歴史と伝統のある協会であり、当協会の専務理事に就任させていただくということは、光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

今後も、県や県警察のご指導をいただき、県民の皆様をはじめ関係機関、団体の皆様とともに悲惨な交通事故を一件でもなくすよう努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、県内では、依然として昨年を上回る交通事故が発生しており、二輪車や歩行者が関係する事故が多発し、また、歩行中の死亡事故では、その大半が高齢者の方という状況になっております。

当協会といたしましては、このような県内の交通情勢を踏まえ、二輪車対策では今年度から新たに「かながわ バイク リカレントスクール」を取り入れ、二輪車の安全講習を充実させるとともに、反射材を大量に作成して配布し、特に高齢歩行者を守る取組を強化するなど、地区交通安全協会と一体となり、県、県警察をはじめ関係機関・団体のご支援をいただきながら、交通事故のない安全で安心な社会を実現するため、今後も取組を進めてまいります。

皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和4年度 交通安全ファミリー作文コンクール優秀作品の紹介

令和4年度 交通安全ファミリー作文コンクールの優秀作品が発表されました。

このコンクールは昭和54年度から実施しており、家庭や学校、職場、地域等において交通安全について話し合ったこと、また、これらを通じて思ったこと、感じたことを作文形式で募集したものです、小学生の部・中学生の部の二部門、4,806点の応募作品から選ばれたものです。

《小学生の部：佳作（警察庁交通局長賞）》

そういう気持ちをなくしちゃおう

神奈川県川崎市立平間小学校 5年 石樽 沙衣

「わたっしゃえ　そういう気持ち　なくしちゃえ」

これは、私の家の近所の電柱に貼られている交通標語です。この標語が貼られるようになってから、私は横断歩道での交通マナーを気にするようになりました。

この標語を初めて目にしたのは、約3ヶ月前の習い事の帰り道でした。信号がある横断歩道でいつものように信号待ちをしていると、電柱に貼ってある文字がふと目に入りました。それは、私の通っている小学校の3年生が書いた交通に関する標語でした。そこには「わたっしゃえ　そういう気持ち　なくしちゃえ」と書かれていました。私のことだ、と思わずさけびそうになりました。それくらい、自分の行動に思い当たることがたくさんあったからです。このままでは私もいつか事故にあってしまうと急に怖くなり、今までの自分の行動を反省してこの標語の意味を意識してみようと決めました。

まずは、今までの自分の行動を振り返ってみることにしました。私の行動で一番多かったのは次のような場面です。

塾に向かう時、乗りたい時刻の電車があるので、その電車に間に合うように駅に着きたい。だから、横断歩道の青信号が点滅し始めていても「ええーい、わたっしゃえ。」と思って、ダッシュで走りわたる。とりあえず無事にわたれたり、「ああよかったです、これで間にあうじゃん。」と思い駅に向かう。

ついやってしまっていたこの行動が今思えば、何て危険な行動だったんだろうと反省しました。

家族でこの話題になった時、「青信号が点滅していると、早くわたらなきゃって思っちゃって、まだ横断歩道に差しかかっていないのにちょっとはなれた所からでも小走りになってしまったなあ。」とお母さんが話してくれました。

「わたっしゃえ」と考えていたのは、私だけではなく大人でもそう思ってしまうんだなと分かり、ではどうすればそういう気持ちがなくせるのだろうかと考えてみることにしました。

結局ほとんどの行動が、急がなきゃという気持ちから起きているのではないかと思いました。急がなくてもいいようにするには、信号待ちを一回しても十分間に合うように家を出ればいいのです。私が、「わたっしゃえ」と行動していたあの横断歩道の青信号の点滅から次の青信号までの時間を計ってみたら、約1分40秒でした。ほんの1分40秒分の余ゆうをもつだけと分かり、家を出る前の準備を少しだけ早くし、青信号が点滅しても「ゆとりがあるから大丈夫」と意識して足を止めるようにしてみました。それでも思わず青信号の点滅をわらうとしてしまい「だめ。止まろう。」とハットしたり、慣れるまでは時間がかかりました。でもすっかり習慣化した今は、一緒に歩いている家族にも「止まらなきゃね」と声をかけられるようになっています。

交通事故の悲劇に学ぶ ⑯

●「大罪」

M.S 会社員 (30代)

私が犯罪者となったあの日のことは、今でも鮮明に覚えています。

それは、私が生きている限り決して忘れてはならないことであり、背負っていかなければならない大きな罪です。

ほんの数秒間の自分本位で身勝手な行動が、一瞬にして人の命を奪ってしまいました。

当時の私は、スマホのあるゲームアプリに興味を持っていました。

それは中学生の頃に遊んでいたゲームが最近スマホアプリ用にリメイクされたもので、懐かしさのあまり夢中になっていました。

その日私は仕事を終え、帰宅するため通い慣れた道をいつものように運転していると、ふとそのゲームアプリのことが気になりました。

そして運転中でしたが、「通い慣れた道だし、少しくらいの脇見なら大丈夫だろう」という安易で身勝手な判断から、スマホに手を伸ばしゲームアプリを起動してしまったのです。

直線道路では数秒間スマホを操作し、カーブの手前に来ると前方に視線を戻すという脇見運転を繰り返していたところ、突然「ドン」という大きな音と衝撃がしたので前方に視線を戻すと、フロントガラスにひびが入っていました。

何が起きたか分からぬまま車を停止させ、「まさか人では」と思いつつ車を降りたところ、辺りには車の部品が散乱し、少し離れた所で人が倒れていきました。

この瞬間「まさか」が現実のものになってしまったのです。

被害者のもとに駆け付け、声を掛けましたが全く反応がありませんでした。

救急車を呼び、警察へ連絡し、私は被害者の命が助かるのを、ただ、ただ祈ることしかできませんでした。

しばらくすると救急車と警察車両が来て、私はその場で現行犯逮捕され、留置所へ連れていかれました。そして、その日の夜に被害者が亡くなつたことを知らされました。

私は目の前が真っ暗になり、「大変申し訳ないことをした」という思いで涙が止りませんでした。

勾留中は事故のショックと取り調べの疲れで、1週間ほどまともに食事もできず、寝ることさえできない状態でした。

謝罪の手紙を書き、弁護士を通じて御遺族に渡そうとしましたが、受け取りは拒否されました。

その後私は保釈され、御遺族に謝罪の機会を設けていただこうとしましたが、それも叶わず、いまだに何一つ謝罪ができていません。

事故から2か月後に裁判が始まりました。被害者参加制度により、被害者の奥様が意見陳述をされ、「あなたは数年経てば、また家族と会うことができます。でも私達はもう二度と会うことができません。この気持ちが分かりますか」と言われたことを一生忘れるることはできません。

判決では、自動車運転過失致死罪で懲役2年4か月の実刑判決を言い渡されました。

被害者の方は突然命を奪われたのですから、それに対して実刑判決は当然のことだと思います。それを御遺族も強く望まれていたので私は控訴せず、判決を受け入れることにしました。

市原刑務所に収容されて1年半が経ちました。償いは「刑に服したから」「示談が成立したから」終わるというものではありません。

服役は被害者や御遺族に対する謝罪ではありません。出所してから本当の償いが始まると思っています。

御遺族の心情を考慮し、心の傷が少しでも和らぐような償いを果たして行きたいと考えています。

私が犯した罪の重大さ、奪ってしまった命の重さ、被害者の未来を奪い、御遺族の一生を狂わせてしまったという事実を一日たりとも忘れずに、まっとうに生きていこうと思います。

車はハンドルを手にする人の常識のない行動により、一瞬にして凶器に変わってしまいます。免許を持ち、ハンドルを握る人は命の重さを認識し、慎重な運転を心掛けなければなりません。

最後になりますが、私と同じ過ちを犯してしまう方がなくなることを心より願っています。

この人 207



(一財)横須賀南交通安全協会
会長

おか まさのり
岡 昌憲さん



本年4月1日、警察署庁舎の新築移転により、浦賀警察署から横須賀南警察署へと名称が変更されたことに伴い、新たなスタートをした一般財団法人・横須賀南交通安全協会ですが、その歴史は古く、昭和23年4月1日に設立され、本年74年の歴史を有する県内でも最古の協会の一つです。

東京湾の入り口で、波静かなる浦賀の港は、江戸時代、全国よりの物流の拠点として、また、人々の往来を監視のため浦賀警察署の前身とともに言われる浦賀奉行所を設け、幕末には米国のペリー提督の黒船を迎える、近代日本の開国の扉を開けた歴史ある町で交通安全協会の会長として活躍されている岡会長を紹介します。

会長は、昭和19年、地元の浦賀で生まれ、学生時代はヨットの選手として活躍、後に国

体ヨット競技の神奈川県監督を務めたスポーツマンであります。

地元の横須賀でタクシー会社を経営するかたわら業界の役員、横須賀商工会議所常議員、横須賀ロータリークラブ会長、浦賀観光協会会长等々、多くの役職に就かれており、日々多忙の毎日を元気よく過ごしております。

表彰歴は多岐にわたり神奈川県警察本部長表彰、交通栄誉章緑十字金章、平成28年には旭日双光章を叙勲しております。

会長は「安全で安心な街づくり」「交通事故ゼロ」を常に掲げ活動を続けており、これからも警察、関係団体と一緒に、市民が安全に歩ける街作りを成し遂げて頂きたいと思います。

(取材協力:(一財)横須賀南交通安全協会)

こんにちは「座間交通安全協会」です

こんにちは。座間交通安全協会は座間警察署内に産声を上げ今年で47歳になります。座間市は相模川の水運により市西部の扇状地から開け、古くは日蓮上人が鎌倉から佐渡ヶ島に流罪になる際、厚木の依知から相模川を渡り、座間で休息された由来がある寺院や、徳川家康が自ら植えた銀杏の木が残る寺院など歴史遺産があり、古くから稲作や養蚕の地として発展してまいりました。

昭和12年には東京市ヶ谷台から陸軍士官学校が移転し、昭和天皇が命名された相武台の地名や、現在キャンプ座間基地内に残る陛下の防空壕、行幸道路の名称が残る県道51号線は、士官学校卒業式ご臨席のため陛下が通行された道です。

豊かな自然と歴史遺産のある座間市において、交通安全協会は交通指導員を中心に児童生徒を交通事故から守るため、通学路に



おける立哨や誘導を行い、広報車により高齢者に対する広報活動を行っています。

また、座間警察署、座間市役所と協力連携し、大型スーパーや小田急線相武台前駅、国道246号線主要交差点等において、悲惨な交通事故を座間市から発生させない強い決意で、啓発物品や広報用ビラを配布するなど、広報活動を展開しています。

5月「大凧まつり」、7、8月「ひまわりまつり」、11月「市民ふるさとまつり」では会場周辺での立哨や誘導を行い、市民の皆様一人一人の交通安全を守る活動に邁進しています。

(緑記)

